

令和元年度 事業計画

1. 学術振興事業 1, 150, 000円

先端的科学技術に関わる大学等研究機関及び研究者への支援並びに研究を社会還元へとつなぐための研究セミナー開催を通して学術の振興を図る。

- ①大学院前期博士課程学生の国内学会発表への出張費援助は、支援の上限額を 3 万円/件として引き続き行う。 【75 万円:3 万円/件】
- ②図書費援助は、慶應義塾大学工学部メディアセンターに対し、引き続き行う。 【10 万円】
- ③従来通り、研究会合費援助の予算を計上する。 【10 万円】
- ④「現代科学・技術の最前線セミナー」については、先端的研究の諸分野に関わる研究者等を講師に迎え、例年通り、2回程度の開催(主催/共催)を予定する。 【20 万円】

2. 国際交流事業 900, 000円

日本の科学技術の発展と国際交流の促進を図るための研究者への支援並びに海外からの研究者招聘等の支援を通して先端的科学技術に関する国際交流を図る。

国外学会における研究成果発表のための学会出張費援助は、対象者を教員・大学院生として、引き続き行う。

また、国際交流推進援助として、海外研究者の来日も含め、国際的な移動に対して支援を行う。申請状況に鑑み、昨年度と同額を計上する。

3. 育英奨学事業 5, 690, 000円

科学技術系大学・大学院の学生に対する奨学・育英を図るための学費等の助成並びに成績優秀な学生の褒賞等により先端的科学技術に関わる人材の育成を図る。

- ①研究意欲旺盛で優れた研究業績を挙げると認められる後期博士課程の人物優秀な学生を育英するための助成を引き続き行う。 【210 万円:70 万円/名×3 名】
- ②例年通り、理工学系の大学院前期・後期博士課程の学生に対する奨学を目的とする給費奨学金の給付を行う。 【324 万円:36 万円/名×9 名】
- ③慶應義塾大学工学部卒業生(令和2年3月卒)の成績優秀者7名に対して「慶応工学会賞」(賞状と記念品)を授与し、表彰する。 【35 万円:5 万円/名×7 名】

4. 研究推進事業 170, 840, 000円

産官学連携による委託研究・共同研究の斡旋と紹介、受託研究の受入れ、使用研究者指定の研究資金の援助寄付の受入れ、並びに研究成果の実用化・事業化による社会還元を支援することにより先端的科学技術の研究活動の推進・発展を図る。

例年通り委託研究事業として、企業・公共団体等からの委託研究・共同研究等を受託する。使用研究者を指定した研究資金の援助寄付の受け入れは、年度ごとの増減の幅が大きいため見積ることが困難である。

5. 学術普及事業 2, 000, 000円

科学技術に関わる講習会等の開催及び開催業務の支援を通して、その普及並びに研究成果の社会還元に寄与することを図る。

経済性工学セミナーは、財団創立後まもなく開始し、半世紀にわたって継続して開催されており、その運営に関わる事務を引き続き受託する。また、当セミナーは、新しい研究成果やその時々々の経営ニーズを内容におきこみながら、その充実が図られており、科学技術の普及並びに社会への還元に寄与するものである。